

令和5年度 サビ管・児発管基礎研修及び相談 支援従事者初任者研修（講義部分） 確認テスト（解答）

1. 相談支援の目的

問題：相談支援の役割として間違っているものを1つ選んでください。

- 本人中心の支援
- チーム支援(多業種・多職種連携)
- サービス利用の促進
- 協議会を中心とした地域づくり
- 地域を基盤としたソーシャルワーク

2. 相談支援の基本的視点

問題：「ICF」の説明について、正しいか誤っているか答えなさい。

ICFとは、「国際生活機能分類」と訳される。簡単に言うと、ICFは「人が生きていく上での障壁をその人の個性や周りの環境との関わりを考えた上で、体系立てて分類した世界共通の分類指標」である。障害を機能ではなく環境との交互作用から捉えることが大切である。

- 正しい
- 誤っている

3. 相談支援に必要な技術

問題：相談支援に必要な技術として間違っているものを1つ選んでください。

- ケースワーク、グループワーク、コミュニティーソーシャルワーク
- 悪循環（修正）モデル
- スtrenグスモデル
- バイスティックの七原則
- エンパワメントの視点

4. 障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法（以下「障害者総合支援法等」）の理念。現状とサービス提供プロセス及びその他関連する法律等に関する理解

問題：次の文章のうち、内容が誤っているものを1つ選んでください。

- 障害支援区分認定の基本原則では、障害の程度（重さ）ではなく、必要とされる支援の量で判断することとなっている。
- 65歳以上になった全ての障がい者は、介護保険優先の原則に則り、介護保険サービスに係る保険給付を受けなければならない。
- 高齢者と障がい児者が同一の事業所で円滑にサービスを受けやすくするために、介護保険と障害福祉両方の制度に位置づけられたものを、共生型サービスという。
- 障がい者の重度化や高齢化、親亡き後を見据えて、居住支援のための機能を地域の実情に応じて整備したものを地域生活支援拠点等という。
- 自立支援協議会は障害者総合支援法第89条の3に基づき、地方公共団体によって設置される機関で、地域の課題の検討や、協議会構成員の資質向上、相談支援事業や基幹相談支援センター等の運営への中立公正な評価等の様々な役割を担っている。

5. 障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法における相談支援（サービス提供）の基本

問題：次の文章のうち、内容が誤っているものを1つ選んでください。

- 障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、すみやかに市町村に通報する義務があり、サービス管理責任者及び相談支援専門員も例外ではない。
- 居宅介護サービスの利用者のモニタリングの実施標準期間は3か月である。
- 常勤職員が勤務するべき時間が4週で160時間の事業所の場合、4週の勤務時間が60時間の職員の常勤換算後の人数は0.3人である。
- 児童発達支援管理責任者は、個々のサービス利用者のアセスメントや個別支援計画の作成、定期的な評価などの一連のサービス提供プロセス全般に関する責任を取る立場にあり、他のサービス提供職員を指導する役割を担う者であり、サービス事業所毎に配置が義務付けられている。
- 個別支援計画とは、サービス管理責任者が作成するサービス等利用計画を受けて、相談支援専門員がより具体的に掘り下げて作成する計画のことである。

6. 相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点

問題：基幹相談支援センターの役割として間違っているものを1つ選んでください。

- 総合相談・専門相談
- 権利擁護・虐待防止
- 障害支援区分の調査
- 地域移行・地域定着
- 地域の相談支援体制の強化の取組

7. 相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス

問題：サービス等利用計画と個別支援計画の連動性として間違っているものを1つ選んでください。

- 願いを丁寧に聞き、本人の声を計画書に入れる。
- それぞれの計画書が支援の視点が違うけれど、お互いに支援の方向性や内容を確認しあって連動性を高めていく。
- 利用者が今すぐにはできないような願いを伝えてきたが、相談支援専門員はサービス等利用計画書にその願いを記載した。しかし、絶対に無理だと判断した現在利用中の事業所のサービス管理責任者が全く違う内容の個別支援計画書を作成し、利用者に説明・同意を行った。
- 何か問題があった時ではなく、普段から相談支援専門員とそれぞれの事業所のサービス管理責任者が連絡を取り合ったり、会議を定期的実施している。
- 相談支援専門員やサビ管、児発管がお互いの立場や仕事内容を理解して、チームで支援を行うことが重要である。